

令和8年度 技術移転に係る目利き人材育成プログラム 「バリュープロデュースコース」 タイムテーブル

バリュープロデュースコース

(注) 講師およびカリキュラムにつきましては、都合により一部変更する場合があります。

研修会場 : 科学技術振興機構 東京本部別館 2F会議室A (東京都千代田区五番町7 K's五番町) HP : <https://www.jst.go.jp/koutsu.html>

定員 : 30名

開催期間 : 令和8年7月22日(水)・23日(木)

(講師名: 敬称略)

課程・講師名	日程	会場	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00	
			9:15	9:40	10:00	11:00	11:10	12:40	13:40	14:40	14:50	17:00								
第1回 産学官連携・技術移転活動の全体俯瞰と研究成果の選別・評価 【開講挨拶】 小長谷 寿 科学技術振興機構 入附部 科学技術イノベーション人材育成室 室長 【講師】 各務 茂夫 開志専門職大学 学長 東京大学 特命教授・名誉教授 尾谷 敬造 神奈川大学 研究推進部 産学官連携課 産学官連携コーディネーター ※グループ討議担当講師 出田 光太郎 佐賀大学 リージナル・イノベーションセンター シニアURA 亀上 知世子 リバスティ 代表 電気通信大学 情報理工学研究所 産学官連携研究員 慶應義塾大学 理工学研究所 特任講師 新東亜交機株式会社 健康産業部 技術顧問 伊永 俊雄 岡山大学 研究・イノベーション共創機構 産学官連携コーディネーター 鈴木 正人 株式会社はままつ共創リエゾン委 取締役・プロデュース部門長 高見 宏実 熊本大学 研究開発戦略本部 研究コーディネーター (URA)	7/22 (水)	JST 東京本部 別館2F 会議室A	受	付	趣旨説明・注意事項 主権者 開講挨拶	【講義①】 産学官連携活動の全体俯瞰 開志専門職大学 各務 茂夫 産学官連携の実務者が学びべき視点を把握する。また、グローバル化が進む中で、世界を取り巻く情勢を踏まえ、それぞれの地域でイノベーション創出に向けた活動展開が期待される目利き人材の要件について学び、産学官連携を全体俯瞰する。	休憩	【講義②】 研究成果の選別・評価 神奈川大学 尾谷 敬造 研究成果から事業化展開を進めるためには、研究成果の技術面や研究者の人物面を把握し、事業化へ向かうための研究成果の選別・評価を行うことが重要である。研究成果の選別・評価の実践的手法のひとつである「トリアージ法」を用いて、抜け漏れなく同一視点で研究成果を横並びに評価し、選別する工程や検討のポイントを具体的に学ぶ。	昼食休憩	【講義③】 研究者ヒアリング 研修で取り扱う技術シーズ提供者 本コースで事業化シナリオ策定に向けて検討を進めるためのケース事例として、技術シーズをご提供いただいた研究者へのヒアリングを行う。ヒアリング内容をグループ討議に活かし、社会実装へのシナリオ構築へ進める。	休憩	【グループ討議】 研究成果の選別・評価 (出田・亀上・伊永・鈴木・高見) グループ討議 事前課題で検討した結果や講義②を踏まえ、講義③研究者ヒアリングで得た研究者や技術シーズの背景についてグループ内で意見交換し、技術シーズの事業化の可能性について評価・検討を行う。また、講義①を受け、今後の活動内容や自身のスキルとして必要な要素について、俯瞰的に把握する。	振り返りシート記入・解散							

課程・講師名	日程	会場	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00	
			9:15	9:30	11:00	11:10	12:00	13:00	15:20	15:30	16:30									
第2回 事業化へのロードマッピング 【講師】 木下 裕介 東京大学 大学院工学系研究科 准教授 ※グループ討議担当講師 出田 光太郎 佐賀大学 リージナル・イノベーションセンター シニアURA 亀上 知世子 リバスティ 代表 電気通信大学 情報理工学研究所 産学官連携研究員 慶應義塾大学 理工学研究所 特任講師 新東亜交機株式会社 健康産業部 技術顧問 伊永 俊雄 岡山大学 研究・イノベーション共創機構 産学官連携コーディネーター 鈴木 正人 株式会社はままつ共創リエゾン委 取締役・プロデュース部門長 高見 宏実 熊本大学 研究開発戦略本部 研究コーディネーター (URA)	7/23 (木)	JST 東京本部 別館2F 会議室A	受	付	【講義】 事業プランニングのためのロードマッピング 東京大学 木下 裕介 将来ビジョンと現在を繋ぐための道筋を設計するロードマッピングを学ぶ。戦略やシナリオを検討する際のロードマッピングの有効性や戦略立案のためのポイントを押さえる。	休憩	【グループ討議】 研究成果の選別・評価と事業化へのロードマッピング (出田・亀上・伊永・鈴木・高見) グループ討議 講義を踏まえ、第1回にケース事例としてご提供いただいた技術シーズでロードマッピングを実践し、社会実装までのプロセスや課題などを抽出する。また、技術シーズの事業化の可能性について評価・検討を行う。	昼食休憩	【グループ討議・発表】 研究成果の選別・評価と事業化へのロードマッピング (出田・亀上・伊永・鈴木・高見) グループ討議 引き続き、ロードマッピングや研究成果の評価について修正と検討を行い、事業化への糸口を探る。	休憩	グループ発表 グループ討議で取りまとめた結果をグループごとに発表する。各グループが行ったトリアージとロードマッピングの結果を見ながら、各グループの幅広いアイデアを共有する。	振り返りシート記入・解散								

令和8年度 技術移転に係る目利き人材育成プログラム 「バリュープロデュースコース」 タイムテーブル

バリュープロデュースコース

(注) 講師およびカリキュラムにつきましては、都合により一部変更する場合があります。

研修会場 : 科学技術振興機構 東京本部別館 2F会議室A (東京都千代田区五番町7 K's五番町) HP : <https://www.jst.go.jp/koutsu.html>

定員 : 30名

開催期間 : 令和8年10月14日(水)・15日(木)

(講師名: 敬称略)

課程・講師名	日程	会場	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00	
			9:15	9:45	10:00	11:30	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00								
第3回 研究成果の付加価値の創出 【講師】 鈴木 剛一郎 イノベーションマネジメントコンサルティング 代表・経営コンサルタント ※グループ討議担当講師 出田 光太郎 在野大学 リージョナル・イノベーションセンター シニアURA 亀上 知世子 リハステイ 代表 電気通信大学 情報理工学研究所 産学官連携研究員 慶應義塾大学 理工学研究所 特任講師 新東亜交易株式会社 健康産業部 技術顧問 伊永 俊雄 岡山大学 研究・イノベーション共創機構 産学官連携コーディネーター 鈴木 正人 株式会社はままつ共創リエゾン奏 取締役・プロデュース部門長 高見 宏美 熊本大学 研究開発戦略本部 研究コーディネーター (URA)	10/14 (水)	JST 東京本部 別館2F 会議室A		受 付	趣 旨 説 明 ・ 注 意 事 項	【講義】 実践的技術マーケティング手法 S-N変換法の活用 イノベーション マネジメントコンサルティング 鈴木 剛一郎 技術マーケティングの実践的手法である 「S-N変換法」を学ぶ。従来になかった 価値(機能・効能・効果)と未来の顧客 を向定していくアプローチ手法を理解 し、第三者が興味を引くような技術紹介 のヒントを掴む。	【グループ討議】 S-N変換法を 用いた 評価と研究成果の 価値創出 鈴木 剛一郎 (出田・亀上・ 伊永・鈴木(正) ・高見)	第1回で研究 者ヒアリング をした技術 シーズについ て、S-N変換 法を用いて、 要素技術、機 能・効能(で きること)・ 用途・市場 ニーズなどの 関係について 整理する。	昼食休憩	【グループ討議・発表】 S-N変換法を用いた 評価と研究成果の価値創出 鈴木 剛一郎 (出田・亀上・伊永・鈴木(正)・高見)	グループ討議 午前につき、S-N変換法を用いて研究成果の価値創出について議論を深める。さら に、新たな価値の創出に向けた方向性について検討を行い、その結果を技術紹介 シートにとりまとめる。	グループ発表 グループ討議でS-N変換 法を用いて実践し、とりまと めた結果をグループごとに 発表し、とりまとめ結果を 共有する。	振 返 り シ ー ト 記 入 ・ 解 散							

課程・講師名	日程	会場	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00	
			9:15	9:30	11:00	11:10	12:10	13:10	14:00	15:30	16:30									
第4回 知財戦略の検討 【講師】 久保 浩三 奈良先端科学技術大学院大学 客員教授・名誉教授 信州大学 特任教授 高見 宏美 熊本大学 研究開発戦略本部 研究コーディネーター (URA) ※グループ討議担当講師 出田 光太郎 在野大学 リージョナル・イノベーションセンター シニアURA 亀上 知世子 リハステイ 代表 電気通信大学 情報理工学研究所 産学官連携研究員 慶應義塾大学 理工学研究所 特任講師 新東亜交易株式会社 健康産業部 技術顧問 伊永 俊雄 岡山大学 研究・イノベーション共創機構 産学官連携コーディネーター 鈴木 正人 株式会社はままつ共創リエゾン奏 取締役・プロデュース部門長 高見 宏美 熊本大学 研究開発戦略本部 研究コーディネーター (URA)	10/15 (木)	JST 東京本部 別館2F 会議室A		受 付	【講義①】 大学等における 知財の意義と戦略 奈良先端科学技術大学院大学 久保 浩三 大学等における知財の意義を学び、大学 等の知財がどのように社会実装に関わっ ているかを知る。また、戦略的に権利化 し活用することの価値とその具体的な方 法、国の施策や動向とともに、今後求め られてくる知財・ノウハウ・標準化・ データの複合戦略などを考える。	【講義②】 大学知財と コーディネート活動 熊本大学 高見 宏美 研究成果の導出に向けた知 財戦略や出口戦略を策定す る上でどのような検討が必 要になるかを把握する。事 例を通して、コーディネ タやURAに求められる知 識とスキルについて理解を 深める。	休 息	昼食休憩	【グループ討議・発表】 知財戦略に向けたアプローチ (出田・亀上・伊永・鈴木(正)・高見)	グループ討議 第1回で研究者ヒアリングをした技術シーズを用いて、特許調 査やバテントマップ作成による整理・分析を行う。知財の観点 から今後の技術開発や事業化にあたっての課題を整理し、今後 の方策をグループで検討してまとめる。	グループ発表 グループ討議でまとめた結 果をグループごとに発表す る。知財戦略を検討する上 でのポイント等について、 講師および受講者間で共有 する。	振 返 り シ ー ト 記 入 ・ 解 散								

令和8年度 技術移転に係る自利き人材育成プログラム 「バリュープロデュースコース」 タイムテーブル

バリュープロデュースコース

(注) 講師およびカリキュラムにつきましては、都合により一部変更する場合があります。

研修会場 : 科学技術振興機構 東京本部別館 2F会議室A (東京都千代田区五番町7 K's五番町) HP : <https://www.jst.go.jp/koutsu.html>
 定員 : 30名
 開催期間 : 令和8年12月9日(水)・10日(木)

(講師名:敬称略)

課程・講師名	日程	会場	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00	
			9:15	9:45	10:00	11:00	11:10	12:40	13:40	17:00										
第5回 事業化シナリオの策定① 【講師】 稲熊 律夫 RE-DesignLab 代表 山本 卓司 株式会社マトリクソーム 代表取締役社長 北海道大学歯学研究院 客員教授 ※グループ討議担当講師 出田 光太郎 佐賀大学 リーショナル・イノベーションセンター シニアURA 亀上 知世子 リバスティ 代表 電気通信大学 情報理工学研究所 産学官連携研究員 慶應義塾大学 理工学研究所 特任講師 新東亜交野株式会社 健康産産部 技術顧問 伊永 俊雄 岡山大学 研究・イノベーション共創機構 産学官連携コーディネーター 鈴木 正人 株式会社はままつ共創リエソノ奏 取締役・プロデュース部門長 高見 宏美 熊本大学 研究開発戦略本部 研究コーディネーター (URA)	12/9 (水)	JST 東京本部 別館2F 会議室A		受 付		趣 旨 説 明 ・ 注 意 事 項		休 憩		昼 食 休 憩				[グループ討議・発表] 事業化シナリオの策定 実践① 稲熊 律夫 (出田・亀上・伊永・鈴木・高見)						振 り 返 り シ ー ト 記 入 ・ 解 散
					研究成果を活用・応用した 製品・サービスへの事業化 シナリオに必要な項目(解決 を図りたいペイン・課題 や想定する顧客等)のポイ ントについて学ぶ。		大阪大学発ベンチャーの株式会社マトリ クソームは、細胞の性質や挙動を決定す るといわれるマトリクソーム(細胞外マ トリックスを構成するタンパク質の総 体)の研究を応用し、再生医療に用いら れる細胞培養基質製品の製造・販売を 行っている。株式会社マトリクソームの 事業計画やビジネスモデルから、シナリ オ作成や大学発ベンチャー創出のポイ ントを学ぶ。					第1回グループ討議から検討を進めてきた技術シーズを用いて 事業化へのシナリオを検討する。本技術を活用・応用した製 品・サービスが提供する価値、想定する顧客とその数、競合す る製品・サービス、ビジネススキームなどを整理する。	グループ討議	グループ発表	グループ討議でまとめた事 業化シナリオについて、結 果をグループごとに発表す る。シナリオを作成する検 討の過程を共有し、事業化 へ向かうためのポイントを 整理する。					

課程・講師名	日程	会場	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00		
			9:15	9:30	11:00	11:10	12:10	13:10	15:30	16:30											
第6回 事業化シナリオの策定② 【講師】 追而 ※グループ討議総括 稲熊 律夫 RE-DesignLab 代表 ※グループ討議担当講師 出田 光太郎 佐賀大学 リーショナル・イノベーションセンター シニアURA 亀上 知世子 リバスティ 代表 電気通信大学 情報理工学研究所 産学官連携研究員 慶應義塾大学 理工学研究所 特任講師 新東亜交野株式会社 健康産産部 技術顧問 伊永 俊雄 岡山大学 研究・イノベーション共創機構 産学官連携コーディネーター 鈴木 正人 株式会社はままつ共創リエソノ奏 取締役・プロデュース部門長 高見 宏美 熊本大学 研究開発戦略本部 研究コーディネーター (URA)	12/10 (木)	JST 東京本部 別館2F 会議室A		受 付				休 憩		昼 食 休 憩				[グループ討議・発表] 事業化シナリオの策定 実践② 稲熊 律夫 (出田・亀上・伊永・鈴木・高見)						振 り 返 り シ ー ト 記 入 ・ 解 散	
					大学発ベンチャーの立ち上げから事業化 へのシナリオ検討のポイントを、企業の 実例を通して学ぶ。		第5回の検討を踏まえ、事 業化に向けての課題やリス ク等の整理と、今後取り 組むべき技術開発や知財戦略 等を考える。					午前につき、事業化シナリオ策定に向けて議論を深める。第1 回から様々な分析ツールを用いて検討してきた技術シーズにつ いて、研究者や関係者に提案する形の事業化シナリオとして取 りまとめる。	グループ討議	グループ発表	完成したシナリオについ て、技術シーズの提供者で ある研究者にプレゼンする 形でグループごとに発表す る。						修 り ア シ 証 1 授 与 記 入 ・ 解 散